

ものづくり産業を支える仲間たち③⑧

自動車総連 — (株)キーレックス海田工場

今回は、全国マツダ労連加盟の企業、株式会社キーレックスの本社の位置する主力工場であるキーレックス海田工場を訪問させていただいた。広島湾東寄りの海田湾沿岸近くの海田工場のある広島県安芸郡海田町は、江戸時代に山陽道の交通の要衝の宿場町として栄えてきた。キーレックスでは、自動車作りに欠かせないドア、ボンネット、キャビンや、アッパー・アンダー部分をはじめ、燃料タンク、フィルターパイプ等の燃料系にあたる車体部品や蓋物部品等の開発・生産・組み立てまですべて自社生産している。メーカー側の車作りに企画段階から参加し、設計・生産・品質管理に至るまでの工程に関わっている。事業所は、広島の本社/海田工場、矢野工場、廿日市工場、浅原工場などの他、海外でもアメリカ、中国、タイ、メキシコに製造拠点を展開している。

元々、自動車部品・建築物の製造を行う株式会社クラタと自動車部品の金型など機械加工の三浦工業株式会社が2001年に合併して「キーレックス」が発足した。社名の由来は、「重要さ」を表す「Key」、「指揮をとり未来へと導くLeading」の「L」、「開拓者」を表すExplorerの「EX」を組み合わせて、「未来を切り開く企業」を意味する「KEYLEX」と命名。



燃料タンクの塗装工程

海田工場では、最新式のセルライン方式を採用している。セルライン方式は、製造ロボットと人間が一緒になって、複雑で精巧な車体部品を製造していく。「屋台方式」と呼ばれ使用する部品が全部手に届く距離に置かれており、担当の作業者がロボットをコントロールしながら、最後の仕上げ部品を取り付けて、その工程の車体部品を完成させる。

燃料タンクとフィルターパイプの作業工程も見学させてもらった。フィルターパイプとは、燃料注入口と燃料タンクをつなぐ太いパイプのことである。追突時、燃料タンクとフィルターパイプに相対変位が起きたときにも燃料が漏れないように、フィルターパイプの留め金などに工夫してあり、安全性に配慮されている。また、燃料タンク内部も、タンクの中に仕切りがいくつか付けられ、走行中、振動があっても、ガソリンが動かないような安全面を考えた設計がされている。

表紙のイラストはマスキング工程。マツダの燃料タンクは、仕向地の仕様（要求品質）によって2種類の塗料を塗り分けている。この塗り分けは1つの製品で部位別に行うので、塗り分け部位にマスキング（養生）を取付ける。また、タンクには燃料ポンプを取付ける穴などの開口部があるので、塗料がタンク内に入らない様に、マスキングで保護している。

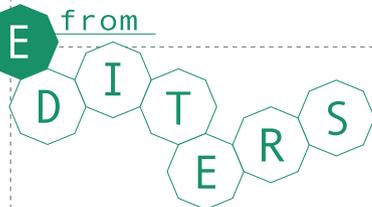
海田工場を見学して感じたことは、一つには、人材を大事にしていることだ。セルライン方式も絶えず改善されていると言う。その原動力について尋ねると、TPS（トヨタ生産方式）を手本に創ったKPS（キーレック

車体部品のセルでの製造工程



光端末加工の作業風景

ス生産方式)の「自主研究会活動」とのこと。各部署から選ばれた若手メンバーチームが、人材育成も兼ねて、定期的にミーティングを持ちながら、2カ月に1回程度、改善案をまとめ、社長以下役員に提案するという。二つには、従業員の仕事がいを重視していることだ。派遣社員も多いので、従業員が自分たちが作っている部品が、自動車全体のどこの部分で、どういう機能を持っているのかを図や写真を使って、導入教育として行い、働きがいの向上に努めているとのこと。三つには、品質へのあくなきこだわりだ。要所所で、品質検査が丹念に行われていた。



◆今年も桜の季節がきた。2月から3月にかけて一番やっかいなのが、花粉症。今や「国民病」とまで言われているほどで、日本人の10～

20%が罹っているという。私も7～8年前から「もしかして・・・」と思いながらも「花粉症じゃない!」と言い張っていたが、4年前の健康診断でアレルギー検査をしたところ、みごと「すぎ花粉」に反応し、めでたく?自他とも認める「花粉症」の仲間入りを果たした。桜が咲く頃にはすぎ花粉も落ち着くので、あと数週間の我慢・・・と、今から指折り数えて桜の季節が終わるのを待っている。◆4月は様々なものス

タートの時期。2016年4月から「電力自由化」がスタートする。電気の契約先を自由に選べるという。東日本大震災の後は、節電を心がけたり、電気について考えることが多かったけれど、最近ではハッと気がつけば、電気をつけっぱなし。皆さんはいかがですか?これを機会に、電気についてもう一度考えるのもいいかもしれませんね。(智)

SPRING issue [春号]